都歴研友の会だより　創刊号

2007(平成19)年7月20日　　東京都歴史教育研究会友の会

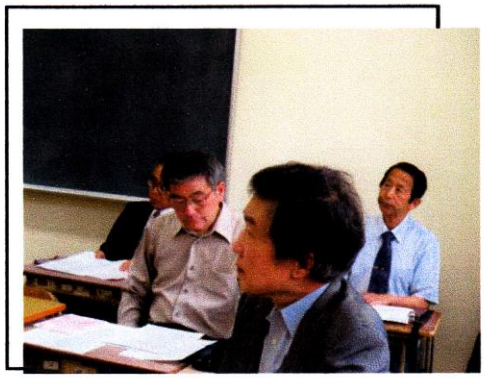
都歴研友の会の発足、そしてこれから

世話人代表　増田克彦

過る６月９日、創立総会を開き、総会直後に入会された方も含め 50 名の会員を擁する東京都歴史教育研究会友の会が成立した。この種の会の必要性が言われ始めて実に７年、具体的作業に入ってからも５回の準備会と８ヶ月の月日を要した。

都歴研友の会設立の第一の目的は、都歴研に対しての経済的援助を行うことにある。これまで都歴研事務局等が顧問等退職者に行っていた業務即ち講演会・史跡見学会案内・・都歴研紀要等の送付業務を友の会が引き取ることで事務局の財政的事務的負担を軽減し、加えるに都歴研にたいして一定の経済的援助をおこなうことである。

都歴研活動は、急激に進められている都教委の施策によって各種教育研究団体同様さまざまな問題を抱え、特に分担金の全廃により財政的に極めて困難な状況に直面していると聞く。都歴研の０７年度予算案を見ると、このような事態をも予測しつつ積み立ててきたとはいえ、特別基金の取り崩しが行われている。



都歴研友の会の設立の第二の目的は、退職者の親睦と情報交換である。1946 年 10 月 12 日の創立以来、1000 名を優に超える歴史担当教員が都歴研のお世話になったはずである。残念ながら、退職後はこれまでお世話になりご交誼いただいた方々と親しくお会いする機会も少ない。

都歴研友の会は、今後これらの目的遂行のために活動する。すでに都歴研の支援活動を開始し、また、独自企画も具体化しつつある。

しかし、目的を円滑に勝つ順調に遂行するには、会員の拡大が必須である。ぜひ会員の方々には、現職時代の知人友人を積極的にお誘い頂きたいし、現職の方々には退職と同時に友の会に入会してくださることを期待したい。

世話人一同、魅力ある友の会を目指し、楽しみながら力まずに邁進するこ

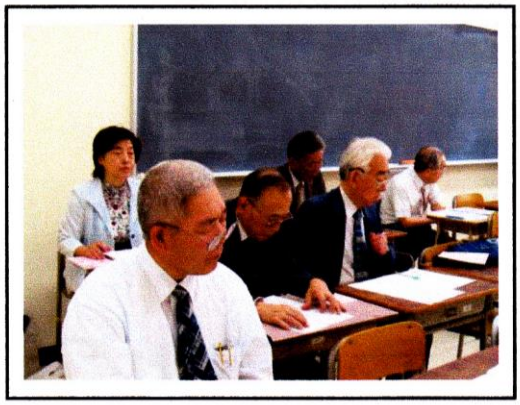
とをお誓いする。

総　会　報　告

村木逸子

設立総会は2007年6月9日（土）の午後、都立小石川高校の教室にて14名の出席を得て開催されました。

次に議案の審議に入りⅠ　会則　　Ⅱ　役員構成　　Ⅲ　事業計画　　Ⅳ　予算案の順で審議がおこなわれました。いずれも事前に（案）が配布されていましたが、準備会、出席者の間で意見交換を重ね別掲のように決定されました。特に、会則については、事前の（案）から変更し、年代を限らずすべての会員が会費を負担することになりました。数年間分をまとめての納入も歓迎です。



参加者からいただいた貴重な意見を紹介しますと、「このような会を長く続けていくためには会費を継続して徴収していくことが大切」ということでした。発足時は納金がおこなわれてもその後は「なしのつぶて」になることも多くこまめに徴収しなければならないということです。また、「財政的な安定を得るためには会員の拡大の見通しをもつこと」も強調されました。会の目的の一つに<都歴研の活動への援助>があるのですから単なる趣味の会とは異なる厳しさが必要ということです。早速この春退職された方への「入会のお誘い」をはじめなければなりません。

また、友の会相互の親睦や情報交換についての「夢」も語られました。現役を退いてからも多方面でのご活躍や研究のまとめをお持ちの会員の情報交換の場をもちたいと「機関紙の発行」も事業計画に折り込まれました。

閉会の挨拶では「この会を長く続けていって欲しい。新しい会員を増やしていきましょう」との呼びかけがなされました。

３時からの講演会開始までの時間をつかって当日の出席者の自己紹介と近況報告がありました。病気・入院・手術などの体験者も多く驚きましたがそれらを乗り越えて当日出席された方々の熱意と真剣さに熱い思いもいたしました。

最後に、都歴研総会の会場に場を移して講演『誤解された三国志』を聴きました。講師は立教大学の上田信教授で、明清時代の環境生態史が専門とのこと、私たちになじみの深い「三国志」について専門分野からの新たな視点や読みとり方を提示された

魅力ある講演でした。先生は吉川英治の「三国志」だけでなく横山光輝の「マンガ三国志」も資料化され、パワーポイントを駆使されての講演で大いに刺激をうけました。このような講演を聴くチャンスのある都歴研の活動の大切さを実感しましたが、現役の参加者が少なく残念でした。

総会終了後、巣鴨の駅近くで懇親会をおこないました。この会からの参加者もあり、親睦は大いに深められました。

東京都歴史教育研究会友の会平成１９年度予算

	項　目	予算額	備考
収入の部	会　費	218,000	前払いも含む
	寄付金	52,000	
	その他	0	
	収入計	270,000	
支出の部	都歴研援助	50,000	
	郵送費	47,200	
	事務費	5,000	文具など
	会議費	5,000	総会会場費
	予備費	162,800	次年度へ
	支出計	270,000	

事務局・世話人　（代表）　増田　克彦

（庶務）　重政　文三郎　　礒山　進

（渉外）　豊田　岩男　　黒田　比佐雄

（会計）　小澤　拓美　　村木　逸子

(会計監査)　飯田　國雄　　樋口　秀司

東京都歴史教育研究会友の会会則

第1条　本会は東京都歴史教育研究会友の会と称し、事務局を世話人代表宅に置く。

第2条　本会は会員相互の親睦をはかり、東京都歴史教育研究会の発展に寄与することを目的とする。

ただし、東京都歴史教育研究会の方針ならびにその運営に関与しない。

第3条　本会は東京都歴史教育研究会の会員であった者及び本会の趣旨に賛同する者をもって構成する。

第4条　本会は次の事業を行う。

1　東京都歴史教育研究会及び全国歴史教育研究協議会等関係団体の諸行事、講演会・史跡見学会・研修旅行等への参加

2　会員のための親睦行事

3　機関紙の発行

4　東京都歴史教育研究会への必要な援助

5　その他本会の目的遂行に必要な事業

第5条　本会は次の役員を置く。

1　世話人　若干名

第6条　役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第7条　世話人の中から次の担当者を選任する。

1　世話人代表　1名

2　庶務　　3名

3　渉外　　2名

4　会計　　2名

第8条　世話人は世話人会を構成し、本会の目的遂行に必要な事項を審議する。

1　世話人代表は本会を代表する。

2　庶務は本会の一般事務を執行する。

3　渉外は本会の渉外事務を担当する。

4　会計は本会の会計を担当する。

第9条　世話人代表、庶務、渉外、会計は世話人会で推薦し、総会の承認を受ける。

第10条　総会は年1回開催し、会則の変更、役員の承認、事業計画の審議及び承認、予算・決算の審議及び承認、その他重要な事項を決定する。必要に応じて臨時に総会を開催することができる。

第11条　総会の決定は総会出席者の過半数を必要とする。

第12条　本会の会計は会費及び寄付金並びにその他の収入をもってこれに充てる。

2　会費については別に定める

第13条　本会の会計は総会により選出または承認された会計監査2名によって監査される。

第14条　本会収入金の使途は次の通りとする。

1　総会運営経費　2　通常連絡費　3　機関紙発行経費　4　その他総会が必要と認めた事項

第15条　本会の会計年度は毎年6月1日に始まり、翌年5月31日に終わる。

附則　本会則は2007年　6月　9日をもって施行する。

会費細目

1．会員は年会費2000円を年度当初に納入する。ただし、前納を可とする。

2．本細目は2007年　6月　9日をもって施行する。

皆さんから寄せられた声　　（順不同、準備会員は除く）

○創立を発議されたことに感謝しております。　（蜷川寿恵）

○都歴研にはずいぶん長い間、お世話になり、特に史跡見学会では得るところ大でした。今でも参加したい意欲はあるのですが、近頃腰痛で歩行困難なので残念です。親睦の会には出たいと思います。　（中村道雄）

○準備会の皆様のご好意を厚く感謝申し上げます。一入のお世話をおかけ申しますが、よろしくお願い申し上げます。申し訳ありません。誘える人々が皆さん病弱で、参加不可能です。（小笠原千草）

○友の会の設立趣旨大賛成です。現役に負担をかけない方法での都歴研・全歴研諸行事への参加がかなうようぜひおはからいください。　（佐藤　徹）

○せっかく会が出来るのですから、１年に１回くらい一堂に会する会も企画してください。なつかしい皆さんと会いたいものです。　（滝沢　順）

○いつもお世話になり心から感謝申し上げます。二名で入会いたします。よろしくお願いいたします。　（鮫澤俊雄）

○都歴研の活動の内容はそのつど知りたいので全ての連絡をお願いします。　（兵頭信彦）

○年ですからご連絡いただいても参加出来るかどうかですが。　（小林良子）

○お世話になります。よろしくお願いいたします。　（千田捷熙）

○入会させていただきありがたいです。事務能力のない考えはありますが、封筒に入れたり、切手を貼ったり、発送したりは出来ますのでおいいつけ下さい。　（佐野和子）

○ご連絡御礼申し上げます。会則（案）をみて、年会費が６９歳とうたい、別紙追記４で、７０歳以上に寄付云々とあるのが気になりました。小生７２歳です。年齢による区別はいかがなものでしょうか。一律でいいではありませんか。　（神山義三）

○７０歳になり、拓殖大を退職します。あと５年は生きていると思いますので、５年分の会費１０，０００円を前納します。　（萱原昌二）

○重要な御連絡ありがとうございました。私は平成２年３月、大泉高校長、都歴研会長をもって退職いたしましたが、その直後、奇妙な病気にとらわれ病院通、従って都歴研への参加も欠席せざるを得ず慚愧の至りです。東大付属病院や近隣の整骨院で治療を続け現在に至っております。東大の掛かりつけの医師はもう殆んどよくなっているから２ヶ月に１回だけ、薬をもらいながら担当医師と冗談をかわしております。実は私の郷里（表記のところ）は典型的な少子高齢化社会で生産年齢の人たちは殆どおりません。従って「郷土への愛」「美しき国日本」などとお題目を並べても実感がないのです。行政は何もしてくれません。何もしてくれない行政にたよることはもう意味がありません。そうであれば蟷螂の斧に過ぎませんが自分でできることを実践する、それしかありません。村の若い衆、若手の職員と語らってあることをやっております。従って「友の会」への出席は殆んど不可能と思いますが、会員にはしていただきたいと思っております。ところで都歴研も都教委からの補助金を打ちきられ思うように活動ができにくい状態のようですね。石原慎太郎をトップとする教育へのしめつけの一環でしょう。都立教育研究所の廃止、そしてそれまで都研で行われていた諸種の研究会への財政的圧力、これは都歴研６０年の歴史の中では、特筆されるべき弾圧です。我々歴史を勉強してきた者たちにとって、きわめて得やすい資料となる暴挙です。この問題に現役の都歴研の人たちと「友の会」とは協力しあい後世に残すべき作業をいたして下さい。発展をおいのりいたします。追伸　上述のように友の会の発足の会には出席できかねます。おわびの意味で１０，０００円同封いたします。わずかですが受納下さい。準備会の皆様にもよろしく御伝声下さい。
（岡野敬生）

○お世話になります。よろしくお願い申し上げます。　（奥山英男）

○時をみて、数名に誘いをかけていきたいと思います。　（小宮　進）

○ご案内ありがとうございました。　（田中晋一郎）

《歴史随想》投稿

大田南畝と多摩の名主たち

重 政 文 三 郎

多摩丘陵の谷戸の奥に、ひっそりとたたずむ歴史の村がある。町田市の小野路である。小野路の小島政孝家は、江戸時代に近隣３５ヵ村をまとめる寄場組合の寄場名主をつとめる家であった。この旧家には、膨大な量の近世文書が、歴代当主によってきちんと整理・保存され、小島資料館として公開もされている。新選組関連資料が有名であるが、近世地方文書としての価値は極めて高いものがあるとされている。

その小島家文書の中に大田南畝の書幅がある。大田南畝といえば蜀山人の名で江戸の狂歌の第一人者であった。私の参加している小島日記研究会で、南畝の書が話題になったので、少し紹介したい。

小島家に伝わる南畝の書幅は６点あるが、そのうち次の狂歌について調べてみた。

やせ牆の　三里にたらぬ高尾山　ゆく駒木野の　関はゆるさし

古文書に親しみたいと思うのであるが、解読はとてもむづかしく、ここに書き出したのは研究会で読まれたことと、岩波の『大田南畝全集』によった。

「やせ牆の‥‥」は百人一首の清少納言「夜をこめて　鳥の空音ははかるとも　よに逢坂の　関はゆるさじ」という本歌をふまえ、また「三里の灸」と距離の３里をかけるなど、エスプリを効かせた歌い込みでみごとな狂歌である。それにしても江戸の有名人がいつどのようにして高尾山まで来たのかという興味で調べていくと、意外にも狂歌師大田南畝の生き様が見えてきた。

天明という時代、田沼政治の爛熟期に、平賀源内や山東京伝などと共に一世を風靡した大田南畝は、実は幕府の微禄な下級御家人であった。寛政改革の時代を過ごしたあと、一念発起して幕府の超難関といわれた人材登用試験を受けた。４６歳で人生の再出発を期したのである。幕府の役人として大坂銅座や長崎に出役して、有能な官吏としての働きがあったらしい。しかしまだまだ隠居はしない。６０歳の年、文化５年(1808)は江戸は５０年来の大雪で年が明けた。６～８月は大雨が降り続き「江戸諸国洪水溢る」と江戸の斎藤月岑は『武江年表』に記した。多摩川も荒れ狂って被害が出ていた。その年の暮れ、幕府はすでに耳順の歳を迎えた大田南畝に、寒中の多摩川巡視を命じたのである。１２月から４ヶ月、河口の羽田から川崎、登戸、府中、日野、八王子にかけて何回も往復した。江戸からは歩いて１日半の距離ではあったが、正月も是政村の名主の家で迎え、３日から巡視の仕事に出るという強行軍であった。この４ヶ月間の毎日の記録を、南畝は『調布日記』に書き残している。

私は『調布日記』に南畝の足取りを追った。２月１６日の条に、拝島から八王子へ向かう道すがら、右に元八王子の山高く遠く小仏峠を望み「近く見ゆる山は高尾山」、と述べている。小仏峠の登り口が甲州街道の駒木野の関所である。「高尾山ちかく見わたさるれど関ありてゆく事あたわず」と詞書きして、「やせ牛の　三里にたらぬ高尾山　ゆく駒木野の　関はゆるさし」（『玉川余波』）と詠んだのである。

南畝のこの４ヶ月にわたる旅の記録は、『調布日記』の他に『玉川余波』など５部１９冊にのぼる狂歌集や紀行文集にまとめられている。その分量たるや膨大であり苦しい仕事の合間によくぞと、驚嘆するが、南畝はたいへんな記録魔であった。行くところの村々で、名主宅に泊まればその家の古伝を聴取し古文書を書写し、神社仏閣ではその由緒や縁起を書き取っていったのである。これらは斎藤月岑父子の著した『江戸名所図絵』の資料にもなったという。

私は、小島家になぜ蜀山人大田南畝の書が伝存するのかを考えていた。『調布日記』の足取りの中に、「日野本郷里正佐藤彦右衛門に書きてあたう」として記された「蕎麦の記」があり、「そばのこのから天竺はいざしらずこれ日のもとの日野の本郷」の狂歌も添えられている（『玉川砂利』）。日野の名主佐藤家にはこの旅で何度も宿泊したのであり、そのような時に蜀山人の書は書き残されたのであろう。佐藤彦右衛門家は小野路の小島家とも姻戚関係があり、幕末に至るまで行き来のあった家であることから、小野路の小島家に蜀山人の書が残ることになったのであると推測される。

大田南畝と同年代の小島政敏から始まって政則、鹿之助につづく幕末３代の小島家当主は、和歌、狂歌、漢詩文と、それぞれに地方文人としての生活を送っていた。天保期以降の農村豪農層に拡がった地方文化に、江戸に爛熟した文化がどのように浸透し影響を与えていくのか、文化の伝播経路をたどるための一つの手がかりを、小島家の書幅が与えてくれると思う。

小島家にのこる南畝の書幅にもう一つ、

七十の　としの上野の花をミて　帰りは駕籠に　のりをこえたり

がある。論語には「３０にして立つ」から始まり、不惑、天命、耳順、そして７０歳は「心の欲するところに従いて矩（のり）を超えず」とある。私もその歳に近づいて、心のままにしたいことをして生きても決して道をはずすことはない、という安心・安定した心境を早く得たいとも思うのであるが、偉大なる南畝先生は違う。天命を知る頃に人材登用試験に挑み、耳順の歳に精力的な仕事をこなしたばかりでなくあわせて膨大な調査記録を残し、７０歳を迎えても孔子様の言うように「矩を超えず」などとすましてはおれない、敢えて「のりをこえたり」と言い放つ、その元気を学びたいものである。実はこの歌は「駕籠にのりそこねたり」とも読めるのであるが、そう読んでも、この年２月に南畝は登城の途中つまずいてころぶということがあったあとだけに、「損ねる」ことを意識して、自身に勇を鼓している心情を感じ取るのであった。

歴史関係各種展覧会のご案内

金刀比羅宮書院の美	7/7-9/9	東京芸大美術館
パルマ・イタリア美術、もうひとつの都	5/29-8/26	国立西洋美術館
旅　国宝一遍聖絵から	7/14-9/30	三井記念美術館
フェルメール「牛乳を注ぐ女」とオランダ風俗画展	9/26-12/17	国立新美術館
青磁のきらめき	6/16-7/29	静嘉堂文庫美術館
足利義満500年京都五山禅の文化展	7/31-/9/9	東京国立博物館
大徳川展	10/10-12/2	東京国立博物館

次の本を読んでから行かれてはどうでしょうか。著者は徳川宗家第18代当主

「江戸の遺伝子」徳川恒孝著　　ＰＨＰ研究所　発行

インカ、マヤ、アステカ展	7/14-9/24	国立科学博物館
明治ニッポンの書	7/7-9/30	台東区書道博物館
日本のやきもの	7/7-8/26	九州国立博物館
シルクロードのガラス	7/15-12/16	平山郁夫シルクロード美術館
水と生きる	6/16-8/19	サントリー美術館
江戸の粋	6/2-7/27	大倉集古館

＊閉館日、料金などは確認してお出かけください。

＜　大事なお知らせ　＞

1、2007年度会費をまだ納入されていない方は以下の口座に払い込んでください。

2、寄付金も受けつけます。上記の口座にお願い致します。

3、「友の会」の独自企画を考えています。ご要望をお寄せください。

来年度秋に海外研修などはいかがでしょうか。

『アドリア海の真珠ベネチアとトスカーナの小さな街を訪ねる』

関心のある方は村木までご連絡を　fwiz7627@nifty.com　04-2942-9512

4、会員のみなさまの投稿を歓迎いたします。1000字以内、事務局まで。

郵便振り込みの口座　　加入者名　東京都歴史教育研究会友の会

口座番号　００１４０－９－３９１３９５

郵便局の払い込み取り扱い票（青い用紙）をご利用ください。手数料金あり。

通信欄に住所・氏名・払込金の内訳などを必ずお書きください。

都歴研 友の会

都歴研友の会事務局　〒191-0033　東京都日野市百草971－158　増田方

電話･FAX　042－591－1853